

■会場の環境と必要な防寒装備■

アナタが1日を通して、コミケットの会場で過ごすだろう場所は、前ページのリストの中のどこだろうか？ 大手や企業には並ぶのか？ サークルの配置場所はどこのか？ 何時頃に会場に到着し、何時頃に帰宅する予定だろうか？ カタログをよくよく確認して自分や目的のサークル（企業）などの場所、そこに至るルートを探し出そう。冊子版カタログを購入しているなら付録の白地図にルートや目的のサークルをマーキングしていくと良いだろう（これを”サークルチェック”といい、コミケット参加者が当日までしておくべき大切な基礎準備だ）。

当然そのマーキングの数が多く、範囲が広域に渡っているほど、全てのチェック先を回り切るには多くの時間がかかり、会場入りの時間も早めに設定せざるを得なくなる。そうなるとどうしても開場前に入場待機列に並ぶことを想定しなくてはならず、防寒対策も重装備が必要になる……。

といったように、自分の当日の動向をシミュレーションすることで、かなり具体的に必要な装備をイメージすることができるのだ。

■防寒は防風を以って成る■

コミケットの会場で寒さを強く感じるのは入場待機中や大手、企業などの行列に並んで長時間の待機をする場合だ。待機場所によっては陽射しもなく冷たい風が強く吹きつけてくる。

体感気温は身体に当たる風の強さに反比例するので、風の有無は防寒と密接な関係がある。逆に言えば風を制することがコミケットでの防寒の大きなポイントになるということだ。

風が身体、特に肌の露出している場所に当たると、そこから体温が奪われる。夏なら大歓迎だが冬では寒くてかなわないので、風を直接受けない工夫が必要になる。それをおろそかにしてはいくら厚着をしてみても、着ぶくれているハズなのに待機しているとどうにも寒い、動き始めると今度は暑いけどかさばる服は脱ぐにも困る、という陥りがちな失敗をしてしまう。

具体的には風を通さない丈が長めの上着と、顔、首、手、耳、足首、腰周りなどの衣服のカバーが及ばない、衣服が薄くなりがちな体温損失スポットをマフラーやストール、手袋、マスクなどの外付け品でフォローすることで体温を維持しよう。腰にカイロを仕込めばさらに快適だ。

このスポット防寒のメリットは会場内の様々な場所で、暑くなったら外す、寒くなったら着ける、と簡単に最適化を図れることで、その効果をさらに高めるためにもアンダーウェアは保温性と速乾性に優れた化繊系のものを、できれば男性もズボンの下にロングタイプのアンダーウェアの着用をオススメしたい。高性能なアンダーウェアは厚手のシャツやズボン1枚に相当する保温効果があって、しかもかさばらないのだ。

暖かく待機時間を過ごし、会場内は軽快なフットワークで活動する。スマート防寒をマスターしよう！



●対地防寒もお忘れなく！

どんなに高性能な防寒着を着ても、スポット防寒を施しても、冷えきったアスファルトの地面に直接座っていればどんどん体温は奪われていくし、例え立っていても地面と接している靴の底から確実に冷えが這い上がってくる。

入場待機列あるいは大手や企業で長時間並ぶことが想定されるなら、地面に座る時にお尻と地面の間で断熱を果たしてくれる携帯座布団（市販品もあるが、図のようにトコ箱などの発泡スチロール板をB5サイズほどの大きさにカットして縁をガムテープで巻いて自作することもできる）や、靴の中敷きを防寒用の物に入れ替える、厚手の靴下を履くといった地面からの冷えを防ぐ対策を講じよう。特に厚手の靴下は歩行疲労の軽減の面でも有効なので、アウトドアショップ、作業用品店などで是非入手して欲しい。

